

は、私の3期目の任期である2019年度内に達成させたいと考えています。

この中でも特に難しいものが2つあり、ひとつは「住まいの再建」です。今仮設住宅に入っておられる被災者の方々の新たな住まいをいかに確保していくかということですが、これまでの3つの大震災の例を見ても一番難しいと感じています。もうひとつ、「益城町の復興まちづくり」です。これはさまざまな要素があり、この10項目の中で最も複雑な項目であると思っています。

一方で、難しいと思っていた「阿蘇へのアクセスルートの回復」については、国

土交通省が2020年度までの新阿蘇大橋や国道57号北側ルート(トンネル)の建設に向けて非常にスピード感を持って対応していただいています。このように、10項目の中でもうまく進んでいるものと、これから相当な頑張りが必要なものがありますので、時間的緊迫性をもって職員と一緒に頑張らなければと思っています。

マインドという意味では、県民の「こういうことをやってほしい」という期待値に沿っていかに実態を提供していくかが大事です。もし期待値に沿うことができなければ、県民は失望し、不満が出てきます。例えば

グループ補助金では「最終的に4分の1の自己負担で復旧できますよ」と展望を示すことで、アナウンスメント効果によって「よし、やるぞ」というマインドを高めています。国や県が「こうやったらどうですか」と促すのではなく、それぞれの人がやる気になって初めてできることですから、住まいの再建についても「家を再建するぞ」というマインドを高めていく必要があります。

松岡 3期目でできなければ4期目ということもありますが(笑い)。

蒲島 それだと時間的緊迫性はありません(笑い)。

市制130周年の2019年を復興の大きな節目に —— 大西市長

松岡 大西市長はいかがですか。

大西 田川会頭も先ほどおっしゃいましたが、大きい事業者は随分復旧してお

り、復興のスピードも速いですが、中小の事業者はなかなか復興が進まない面があります。やはり経済的な面やマンパワー

などの要因もあり、どうしても復興に差が出てきてしまいます。これは個人でも同じことが言えると思います。



2019年までの復旧を目指し工事が進む熊本城大天守



Profile

熊本経済同友会代表幹事
(肥後銀行頭取)

甲斐 隆博

かい・たかひろ

熊本市出身。1951(昭和26)年4月生まれ、66歳。慶應義塾大学商学部卒業後、75年肥後銀行入行。2001年取締役、03年常務取締役、07年専務取締役(代表取締役)、08年副頭取(同)、09年6月頭取に就任。15年10月九州フィナンシャルグループ(九州FG)会長。11年から熊本経済同友会代表幹事を務める

しかし、「差があるからけしからん」ということではなく、進められる方は一日でも早くどんどん復興に向かって進んでいただくということを、我々は行政として後押ししていかなければいけません。逆になかなか進まないという方に対しては、伴走型住まい確保支援事業などを通じて、行政として、個人の課題に応じ、フォローアップを全力で行っていくということを、これから明確にしていかなければいけません。

そういう意味では経済界の皆さんとも歩調を合わせ、個々の復旧復興の状況に合わせて支援メニュー・政策を考えていくことが非常に重要だと思います。例えば、リバースモーゲージで高齢者の方の資産を住宅再建のために活用することを金融機関の皆さん方に協力していただいています。

熊本城大天守復旧、市街地再開発で回遊性ある熊本へ

大西 それともうひとつ、2019年が一つの大きな節目の年だということを意識して進めるということです。ラグビーW杯や女子ハンドボール世界選手権大会といった大きなイベントがあり、熊本城大天守もその時期に復旧するというので進めており、そのお披露目も当然あります。桜町一帯の再開発事業も2019年完成ということで、非常に大きな節目が2019年に一気に押し寄せます。この時期を熊本の復興におけるひとつの目標地点として設定し、先ほど知事がおっしゃった時間的緊迫性、時間を意識するのは非常に大事だと思います。

さらに2019年というのは市制施行130周年でもあり、熊本の復興を大いにアピールするひとつの大きな節目ではない

かということも意識しています。実は市制施行70周年の昭和34年に記念事業として熊本城大天守の再建に着手しています。ですから130周年というのは熊本市の歴史にとって、そして未来にとって大きなポイントと捉え、これを節目にして復興を力強いものにしたと思っています。その翌年の2020年には熊本駅白川口の駅前広場が完成し、交通結節点としての機能強化が図られます。21年にはJR熊本駅の駅ビルが完成し、また新たな拠点ができ上がります。

ここを一体的に点と点をきちんとつないで、線から面にしていき、回遊性のある熊本になっていく、そういう原動力の年にしたい、という目標を持ちながら短期的にはやっていくことになると思います。